

情報処理学会論文誌「教育とコンピュータ」の 編集にあたって

越智 徹^{1,a)}

1. 第6巻第1号の刊行にあたって

情報処理学会論文誌「教育とコンピュータ」(IPSJ Transactions on Computers and Education, TCE)は今回の第6巻第1号で通算16合目の刊行となります。こうして本号を刊行できましたのも、ひとえにご投稿いただいた皆様と、丁寧な査読者の皆様ほか、関係者の皆様方のお力によります。この場を借りてお礼申し上げます。

本論文誌は、コンピュータと教育研究会(Computers in Education, CE)と教育学習支援情報システム研究会(Collaboration and Learning Environment, CLE)を母体とし、研究会の名称のとおり「教育」と「コンピュータ」、そしてこれらを支援する学習支援システムについて扱っています。また、多様な教育実践の知見が集まるよう、「実践論文」や「ショートペーパー」といったカテゴリーを用意し、より現場の知見を集めるようにしているのが特徴です。また本論文誌では読者にとって有益な情報や価値ある知見を積極的に紹介するため、条件付き採録の照会回数に制限を設けず、可能な限り研究成果を拾い上げるという点も特徴であります。この点、著者と査読者の両者に長期間に相当の負担がかかってしまうことはやむを得ませんが、皆様の貴重な研究結果・実践結果を論文化するために、ぜひ積極的にご投稿、査読へのご協力をよろしくお願いいたします。

いよいよ来年度より小学校のプログラミング教育が開始され、高等学校の教科情報の改訂も迫りつつあります。また、大学ではBYODに関する取り組みがよく聞かれるようになりました。本号では、幼児教育におけるプログラミング実践や、大学におけるBYODの実践例に関する論文をそれぞれ収録しています。いわば旬の話題であり、今後同様のトピックスが投稿されることを期待しております。重ねてではありますが、皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

2. 本号掲載論文の紹介

本号では、招待論文1編を含む5編の記事を掲載しています。

- 招待論文「東京大学駒場での情報教育—始まりと展開」は、東京大学で1993年度から開始された全学生必修の一般情報教育について、貴重な記録を元に、1970年代の計算機プログラムやプログラム電卓といった情報教育以前の段階から、一般情報教育の立ち上げ、そして現在までをまとめています。
- 「三重大学におけるノートパソコン必携制度(BYOD)導入の報告と分析」は、スペック選定、インフラ整備といった導入前段階のほか、導入後における初期セットアップやサポートデスクの活動状況、学生間のピア・サポートなど、三重大学におけるBYODの取り組みを、総合的にまとめています。
- 「幼稚園児のビスケットプログラムにおける動きの方向の理解についての分析」は、幼稚園の現場でプログラミング教育を13回実施し、最初の4回に園児たちの作成したプログラムを分析し、幼稚園におけるプログラミング教育の可能性についてまとめています。
- 「IoT・ポリシー：動機づけおよび能力獲得のためのIoTセキュリティゲーム演習ツールの提案」は、セキュリティ人材の獲得・養成について、サイバーセキュリティゲーム演習ツールIoT・ポリシーを用いた演習を行い、類似するセキュ・ワン等との比較から、セキュリティゲームについて検討しています。
- 「LMS経由で手書きレポートを返却するWebサービス「かみレポ」の開発・評価」は、学生が提出した手書きレポートを管理し、LMSを通じて電子的に返却するシステムについて、半年間の試験運用時のシステム精度評価と運用開始後の1年半におよぶ運用評価についてまとめています。

¹ 大阪工業大学
Osaka Institute of Technology, Asahi, Osaka 535-8585, Japan

^{a)} toru.ochi@oit.ac.jp